

令和5年度第1回諫早市まちづくり総合戦略推進会議会議記録（要旨）

日時：令和5年7月26日（水）

15:00～16:50

場所：諫早市役所5階 大会議室

【会議次第】

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 副市長あいさつ
- 4 会長の選出
- 5 協議事項
 - （1）諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況について
 - （2）国のデジタル田園都市国家構想を踏まえた対応について

【要旨】

協議事項

- （1）諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況について

【事務局説明】

（委員）

観光入込客数が令和4年度で189万人となっているが、どういう方たちをカウントしているのか。

（事務局）

結の浜や白木峰高原、唐比の蓮園、山茶花高原などの観光地やゴルフ場などの来場者数。

（委員）

ホテル等の宿泊客数や新幹線の利用客数はカウントされないのか。

(会長)

我々の概念だと観光客は市外の方。利用客と混同していないか。

(事務局)

観光統計では利用客をカウントしている。

(委員)

小さな拠点の実績で共同住宅や戸建住宅の建築件数がある。アパートとかは建てたけれど入居がないというのが全国的に問題になっているが入居状況はどうか。

市内から市内へ転居したりもあると思うので、建てた数がそのまま人口増とは言えないのでは。

また、小さな拠点について、令和2年から新規無しとなっているが、今後も設定はしないかもしれないということによいか。

(事務局)

戸建て住宅や共同住宅については、入居数はいま把握できていないが、ある程度の入居見込があって建てている。例えば、長田地区の共同住宅は大体入居したという実績があり、小学校の児童数が増えるなどの実績もある。

市内からの転居については、例えば西部台や青葉台など新しい宅地について調べたところ、4割程度は市外から入ってきている状況がある。

小さな拠点については規制緩和の手法の一つであり、多良見の丸尾地区や長田の小豆崎地区などは、都市計画という手法で一体的な開発を行うなど、様々な手法があるため、小さな拠点の設置を目標値としているが見直しが必要と思っている。

(委員)

スポーツ交流人口はどういう人を集計しているか。観光入込客数に含まれるのか。

(事務局)

後日お知らせする。

(委員)

ホームページの閲覧数を指標としているが、最近はSNS等の発信を積極的にされている。

現在の市のツイッターやLINEの登録者数がわかるか。

今後、移住する若い人はSNSを利用すると思うので、今後指標とする予定などあるか。

(事務局)

現在の登録者数については後日お知らせする。SNSの登録者数を目標値とするかについては検討したい。

5 協議事項

(2) 国のデジタル田園都市国家構想を踏まえた対応について

【事務局説明】

(委員)

観光関連産業活性化の中にV・ファーレン長崎ホームタウン事業とある。来年には長崎市にホームタウンが移るので観光客の数値に影響があると思う。すべてのホームゲームを長崎で開催することではないと聞いているが何か情報はるか。

(事務局)

V・ファーレンのホームタウンが移ることの影響については、今後の見直しの中で整理したい。ホームゲーム開催の情報などは確認する。

(委員)

いさはやコンピュータカレッジの目標値が85となっている。近年、82人受け入れるなどしているが定員は70人なので目標値を検討してほしい。

デジタル田園都市国家構想として位置付けると書いてあるが、デジタル技術の活用について総合戦略に今後盛り込んでいくのか。

(事務局)

デジタル化は手段であり目標ではないため個別の事業に対してデジタル化を行うという書き方にしていない。定員を超える目標値は不相当だと思うので修正する。

(委員)

ソニーが拡張を行っており新たな雇用が発生すると聞く。私が聞いたところでは600世帯くらいは来るとのこと。これに関連して、大学に担い手確保や家を探してほしいという相談があっている。

住まいについては学校や交通利便性の点で東長崎を希望される方もいるが、ソニーのアンケートでは定住を希望する方が多く、600世帯なので1,000人近くが長崎市に行くというのはどうかと思う。

世界でのシェアも高い半導体企業があるのだから、総合戦略を考える上で利用しない手はない。一つは地元雇用。求職者より求人数が多く下請け企業も入れるとすぐに内定が出る状況なので地元雇用が定着につながる。もう一つは消費。出張で国内外から来ます。長崎の三菱造船では何百億という波及効果があったと聞く。コアとなる産業があると、その周辺の産業、定住、担い手確保、消費、観光とまちづくりに貢献できる。また、デジタル技術のスペシャリストがいるので、教育面での効果もある。小中学校で最先端の技術者の話しを聞くという機会はなかなかないので活用してはどうか。

また、技術開発型のスタートアップ企業の相談も多い。スタートアップ企業はその継続が難しい。そういった企業の事業継続を目標値にするとかはどうだろうか。

子育てや結婚についても書かれているが、若者定着も大事ではないか。長崎日大、創成館、鎮西学院など多くの高校がある。市外から通う子は3年間諫早市と接点をもつことになる。この子たちに第2のふるさととして考えてもらおうと若者定着になると思う。

まとめると一つは、ソニー長崎をはじめ、半導体産業が進出する諫早はアドバンテージを持っている。それを活かせる政策を作るべきだと。二つ目に技術開発型のスタートアップ育成が出来る唯一の町だと思うので、それらの事業継続も含め取組んでほしい。最後に若者定着の3つをお願いしたい。

(事務局)

人材確保の問題があるというのは認識している。人材育成というのは市だけ難しい部分がある。周辺に技術を持ち支えてくれる企業があるので、それらを生かすのも大事な方法だと思う。また、半導体企業に対する支援として、交通問題であったり居住環境であったりを県と市が連携し、協議するなどを行っているところ。お話しいただいたことも盛り込めるところがあれば取組みたい。

(会長)

いまのご意見は非常に大切なところなので、しっかりと計画していただきたい。

(委員)

新幹線や商業施設などができるので、今回の改訂では既存の修正ではなく、それらに合わせていく必要があると思う。雇用の目標値はクリアできると思う。問題は生まれた雇用をどう定住化

させていくか。そこがまだ薄く受け身な感じがする。今から変わっていく諫早の新たな資源をどう使って、活かしていくかというのを市民が求めていることだと思う。

(会長)

諫早市もトップセールスなど行っているが、雲仙市など他の市もトップセールスでうちに住んでくださいと言っている。島原半島の市からしたら、沿岸道路や島原道路などが出来ると人材が取られてしまうという面もある。諫早だけで考えるともっとこうやりたいなどあると思うが、周辺地域も含めたメリットデメリットの絡みもあるのでそれが難しいところだと思う。そういう中で商工会議所の会員の中では、ソニーや京セラ、大型商業施設などが出来ることで、地元事業者からの人材が引き抜かれ、今後の求人が難しくなるのではないかとこのことを危惧している。

また、諫早市はアパート、マンションの建築ラッシュで土地や住宅の金融機関の融資も多くなっていると聞く。デジタル関係の工場が集積しているのであれば、長崎空港の24時間化などもメリットがあると思う。せっかくなので委員の皆さんのそれぞれの立場で意見を出していただければ。

(委員)

高齢者にとってはデジタルというものは全くわからないところからスタートするので、デジタル化を行うにあたってはわかりやすく教えていただきたい。

(委員)

若い人が定着し、仕事をもって経済的にやっていけるという社会を作らないと、結婚もできない。そしたら子どももなかなか生まれられないという社会になっている。子育てには医療も大事であるが小児科医の高齢化が進み、辞められる先生もおり厳しい状況にある。諫早総合病院で夜間の1次救急を行っているが、それも小児科医の高齢化で厳しくなっている。1次救急を軽い症状利用する方もいて、医師会としても1次救急をどうやって行くか。今後行政と話しながら検討したいと思っている。

(委員)

学童でgoogleの人の説明を聞いた。子どもが大きくなって何になりたいかなど、経験したことなどが職業選択に関わってくるので、ソニーなど企業の方の話聞けるのは、企業とともに子どもが未来を描け、定着に繋がっていくのではないかと。

(委員)

小さな企業は求人が難しく、大きな企業が来たら共存できるのかが一つの問題だと思っている。

(委員)

組合に加盟している企業でも人出不足が問題となっている。例えば物流とかで既存の企業が大企業と絡めないか。新しい人が増えるというのも大賛成だが、今いる人数で生産性を上げ、企業が儲かり、賃金が上がるという流れをやらなきゃいけないと思っている。もし企業が淘汰されることがあった場合でも、地元の人が地元のところで就職できるような産業雇用安定センターとの連携など、せつかく諫早で就職している方が、また諫早で就職できる、もしくは再雇用できるような環境について総合戦略のなかで考えてほしい。

(委員)

私が諫早に住んで起業し婚活などに取組んでいるが、転勤族が多く一人で子育てをしている人が多い。諫早は自然が多く良い街。すくすく広場をはじめいろんな活動をされているので、諫早で結婚し、子育てをし、起業してという人が増えればいいなと思っている。ソニーなど大企業の方との婚活とかも良いかもしれない。

(委員)

小長井はのびのびしていて環境もいいところだがだんだん人口が減っている。地域おこし協力隊や小長井の町おこし隊の方など、若い方たちが一生懸命小長井を盛り上げようとしている。

先日、孫ができ子どもが小長井に里帰りをしている。1人目が多良見の保育園に行っているので小長井から多良見に通わせている。例えば、1か月今の保育園を休んで近くの保育園に通うことが出来れば安心して子育てができるのではないか。

(委員)

私も小長井出身。小長井には就職する場所がなく出ていく人が多い。若い人がどうしたら定着出来るのか。昔は子育ては祖父母が協力しながらやっていたが核家族化で子育てが難しくなっているので子どもが減少していると感じる。

(会長)

今回の改定の説明ではKPIの数字を入れ替えるという方向であったが、根本的に変えるような冒険をしていただくような提案もあっていいのかなと思う。そろそろ時間になるので事務局から連絡事項などないか。

(事務局)

今回の総合戦略の改定資料は、次期総合計画と期間を合わせ、総合戦略の根本的な見直しは、総合計画の策定と同時に行いたいという考えのたたき台。次回の会議では改定の素案という形で今日の会議の意見も踏まえ整理して示したいと考えている。